

CAGLIERO¹¹

カリエロ11

サレジオ会宣教ニュース N.59 - 2013年11月

サレジオ会宣教部門によるサレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信



サレジオ会員の皆さん、 サレジオ・ミッションの 友人の皆さん！

今日、私たちは、1875年11月11日のドン・ボスコによる最初の宣教師派遣を思い起こします。この派遣は、サレジオの歴史に大きな方向づけを与えただけでなく、サレジオ会カリスマの姿そのものに大きな影響を与えました。ドン・ボスコ自身、11回にわたって宣教師を派遣しました。1888年には、サレジオ会員の20%がアメリカ大陸の宣教地にいました！1875年から2013年までに派遣された11,000人の宣教師は、私たちのカリスマ、霊性、サレジオ・ミッションにどれほど影響を与えたことでしょうか！

宣教派遣はサレジオの聖性にどれほど影響を与えたことでしょうか！フランシスコ教皇もパタゴニアの最初の宣教師たちを、豊かな実を結ぶキリスト者の生き方の模範と認めています（2013年9月20日付、La Civiltà Cattolica）。サレジオ家族の聖人、福者、尊者、神の僕のうち、25人が宣教師、あるいは宣教師による第一次福音

宣教の実りです！確かに、私たちの会には宣教のDNAがあるのです！

Vedran Clement

宣教顧問
ヴァツラフ・クレメンテ神父

なぜ宣教師を私たちの国へ？ 私たちは貧しくないのに！

先進国のサレジオ会員が次のように言うのを聞くのは珍しくありません。「なぜ私たちの国に宣教師を送るの？ 貧しくないのに！」同じように、かつて「宣教地」とされていた国の出身の宣教師たちの中には、物質的に豊かで技術の発展した国に派遣されることに意味があるのかと、考えてしまう人もいます。多くのサレジオ会員は言葉にしないものの、ヨーロッパのサレジオ会カリスマを再興するという前回の総会の指針-ヨーロッパでのサレジオ会のあり方を刷新するために必要な、「プロジェクト・ヨーロッパ」として現在知られている取り組み-に関して、この点で問題を感じています。

実際、ただ社会-地理的なレベルにとどまらない、より深い問題がここにあります！「宣教の使命mission」の片寄せた理解に根ざす問題です。「教会の宣教活動に関する教令」（第二バチカン公会議公文書）の6項に述べられているように、宣教を「キリスト教国」から「非キリスト教国」への一方通行的な動きとしてみれば理解したり、使徒的勧告『福音宣教』の31項にあるように、社会的向上や開発を宣教活動の最も重要な要素と見なしたりすることです。宣教の使命の理解が、このような片寄せた理解のまま化石化してしまったかのようです。しかし、すでに1991年、ヨハネ・パウロ二世が回勅『救い主の使命』の33-34項で主張したように、**宣教の使命はもはや、地理的に一方通行的なものとしてもっばら理解することはできず、互い**

に影響しあうそれぞれの状況においてイエス・キリストを告げ知らせることとしてまず理解されなければなりません。第一次福音宣教、あるいは司牧活動、新福音宣教を必要とするそれぞれの状況です。そしてヨハネ・パウロ二世は、伝統的に「キリスト教国」、「宣教地」と呼ばれた国々との相互依存と助け合いを呼びかけました。同じ観点から、教皇ベネディクト十六世は、「残念なことに今日、召命に不足している」、「世俗化した国々での新福音宣教に貢献してください」とアフリカの教会に呼びかけました。このことは、諸国の民への宣教 ad gentesの推進力の弱まりを意味するのではなく、その「実り豊かさ」の「具体的なしるし」（使徒的勧告『アフリカの使命Africae Munus』no.167）なのだ、とベネディクト教皇は強調しました。このように新たにされた宣教の使命のビジョンをもって、教皇フランシスコは、福音を告げ知らせるために社会的な“未踏の地”へと出て行くようにと、絶えずカトリック信徒を招いています。

この背景のなか、総長は、プロジェクト・ヨーロッパが「すべての地域と管区」に関わる「会全体のプロジェクト」（第26回総会文書147）であると強調しています。それは第一に、「宣教」理解のこの画期的変革を生きたため、**すべてのサレジオ会員に思いと心の回心を求める**ものです。それが実現するとき、はじめて互いへの信頼と開かれた精神に活気づけられたサレジオ会宣教師の多方向的交流が実現し、その結果、すべての管区が豊かにされ、会全体が刷新されるでしょう！

宣教部門 アルフレド・マラヴィラ神父





アメリカ大陸の最初のサレジオ会宣教師のように 移民のために働いています…… ヨーロッパで!

私

私の宣教師としての召命は、サレジオ会の修練準備期を過ぎていたとき、ペルー・アマゾンのアチュアル族の中で働いたルイス・ボツラ神父とその働きについてビデオを見たのがきっかけでした。私は心を打たれ、いつか最も助けを必要とする人々の中で働きたいという望みが頭から離れなくなりました。こうして修練期のとき、今総長となっている当時の地域顧問チャーベス神父に、海外宣教の望みを伝えました。チャーベス神父は、望みへの答えは哲学の勉強を

終えた後でと言いました。2001年に実地課程を始めたとき、私はほかの4人の宣教師たちと共に、ペルー・アマゾンの最初のサレジオ会共同体を設立し、7つの部族のインディオの人たちの中で働くために派遣されました。私の夢は実現しつつありました。実地課程の1年目はインディオの人々の中で働き、その後、ストリート・チルドレンのために働くため、リマに送られました。

神学の勉強を終え、私は海外宣教の望みを表明しました。その返事は2010年、すでに司祭としてアマゾンのインディオの人々の間で働いていたときにももらいました。私の派遣先は、プロジェクト・ヨーロッパの一員になることでした。私は中南米からの移民の人々の中で働くため、初めにアイルランド、それからジェノバ・サンピエルダレナに送られました。もちろん、カルチャーショックから来る困難に直面しました：言葉、兄弟的関係の違い、世俗の視点・世俗化する世界の視点からのサレジオ会カリスマの見方、信仰と生活の統合の難しさなど……私たちサレジオ会員でさえ、統合の努力が必要でした。

新宣教師研修コースはとても役に立ちました。私は自分の文化とは全く違う文化に入ろうとしていましたが、コースはそのために備えさせてくれたからです。それだけでなく、さまざまなヨーロッパの現実を自分のものとしてとらえ理解するために、私にとってこの過程をたどったことは非常に役に立ちました。コースでは、私たちが会合することになるあらゆる問題が前もって示されました。サレジオ会カリスマの源泉についての知識、霊性週間、新宣教師の体験の分かち合いなどのテーマは、私にとって大きな助けになりました。

このように尋ねる人がいます：「ペルーにも宣教師が必要なのに、なぜヨーロッパのラテン・アメリカの人々のために宣教師になるの？」この問いへの私の答え：最初のサレジオ会宣教師たちの主な役目の一つは、アメリカ大陸のイタリア人移民を世話すること。今、私の第一の役目はジェノバのラテン・アメリカ系移民の世話をすることです。この人たちは、ラテン・アメリカからの司祭が来るのを長らく待っていたのです。私の国にも大きなニーズがあることを知っていますし、自分もそれを体験しました。でもここジェノバのラテン・アメリカ系移民の間にも大きなニーズがあると知っています。自分たちの文化を再発見し、励ましを受け、話に耳を傾けてもらうというニーズがあります。特に、経済、社会、政治、文化、宗教のあらゆるレベルで危機にある今の時代に。そのため私は、神のみ旨に従ってプロジェクト・ヨーロッパの一員となった、私とすべての宣教師の人生の歩みを導かれる神に、感謝してやまないのです。

ペルー出身、イタリアの宣教師
ダニエル・コロネル神父



第144回サレジオ宣教派遣のメンバーのための新宣教師研修コース
<http://vimeo.com/77022954> 「グループ43」(ポーランド)のロマン・シコン神父制作



サレジオ会の宣教の意向

CAM 4のため(全アメリカ大陸)

ベネズエラのマラカイボで開催されるCAM 4とCOMLA 9が、アメリカ大陸全土に宣教の熱意を燃え立たせるものとなりますように。



ベネズエラのマラカイボで開催される(11月26日-12月1日)アメリカ大陸宣教大会(CAM 4)とラテン・アメリカ宣教大会(COMLA 9)の成功のため。CAM 4に先立ち、アメリカ大陸の各管区で働くSDB・FMA会員が、「アメリカ大陸におけるイエス・キリストの最初の告知」研修会のために集い、引き続いてCAM 4に参加する予定です。この体験が、アメリカ大陸における宣教の熱意を再び燃え立たせるものとなるよう祈りましょう。アメリカ大陸のキリスト者が、自分たちの置かれた場で、さらに大陸の外へと福音を告げ知らせる責任への意識と献身を深めることが大切です。司教たちがプエブラ文書(CELAM, 1979)ですでに指摘していることを実現するためです。「確かに私たち自身も宣教師を必要としています……しかし、私たちも貧しさの中から差し出さなければなりません。」(368)

Cagliari 11(カリエロ11)の全バックナンバー：<http://salesians.jp/library/cariero>